

安曇野民報ほりがね

やすひこ

うすい、泰彦通信

3月議会報告

一般質問

積極的検査で感染抑止を！

ゼロコロナを目指して 命とくらしを守り 経済を回せ！



菅政権の無為無策により新型コロナウイルス感染症の4波を招いています。パンデミック大災害の対応ができない政権への強い批判は、先の3つの国政選挙での市民と野党の統一候補の勝利にもつながりました。

3月議会の一般質問で白井議員は、国民に協力をお願いし、いつ行き渡るかわからないままに期待を持

たせて我慢を強いるワクチンだけの感染防止策ではなく、積極的検査でこそ感染抑止ができることについて市執行部の考えを質しました。また巡回バスの実現に向けた市の姿勢の問題点を質しました。

「3月議会の概要は、日本共産党安曇野市議団ニュースNo.51号でご覧ください」

感染者や濃厚接触者の不安や重圧に思いを

松本圏域と安曇野市の感染状況は

白井 この1年2か月、日本での感染防止策は、国民に手洗い、マスク、3密を避けるお願いや事業者への自粛要請、発症者や濃厚接触者への守りの検査を中心に行ってきた(以上防止策1)。世界で当たり前に行われていた対策は、これら守りの対策の上に、感染震源地を定めて、住民や事業所全体に行う面的検査や、

医療・介護・福祉施設などの従事者や患者、利用者への定期的な検査を積極的に行うこと(以上防止策2)であり、それこそ感染拡大を抑え込むことができ、医療への負担を減らし、経済活動を活発化させられる。

私たちは、感染者が発表されると、その回復を願うとともに、感染者の、家族や関係者への感染や差別の心配に思いをめぐらせてきた。保健所から連絡があり、濃厚接触者として検査を受けた方の不安、自分や家族、仕事やつき合いで関係する方々とのつながりへの影響の心配、心理的圧は・・・こうしたことに思いをいたしつつ、松本圏域と安曇野市のこれまでの感染状況を伺う。(次頁へ続く)



保健医療部長 2月末現在、市内の感染者数は50人。うち濃厚接触者22人、帰省等県外往来5人、市外でのクラスター関連3人、感染確認施設等3人、感染経路不明者17人である。

松本圏域の感染者数は、380人である。松本圏域の行政検査数は2月末現在2万8640件。当市の外来検査センターの11月25日～2月末の検査数は114件。

国の感染対策について市独自の評価をせず！

白井 日本では守りの対策(防止策1)で、感染集積地への面的検査や医療・福祉施設等への定期的検査(防止策2)が国の責任で十分行われなかったことから第2波、第3波を招いてきたと考える。

これまでの感染拡大防止対策をどのように捉えているか。

市長 地理的な要因だけでなく市民や関係者の感染防止の努力が表れている。国の対策については、コメントは差し控える。

市は積極的PCR検査を国に要望せず！

白井 今後の感染拡大抑制対策について伺う。

ワクチンは、その確保が不透明な上に、一般市民への接種はまだ先だ。また、ファイザーワクチンの3つの予防効果、感染予防、発症予防、重症化予防のうち、政府が認めているのは発症予防効果だけで、効果の持続期間も不明だ。



市販のPCR検査キットの唾液採取の説明より(東亜産業提供)

これまで政府の感染防止対策(防止策1)が今後

も同じならば、変異株の感染拡大など予測できない要素もあり、第4波が起ころことは必定だ。積極的検査を行うこと(防止策2)が感染を抑止し、第4波を防ぎ、経済を回すことにつながる。県や国にきちんとこれを要望すべきではないか。

市長 全国市長会からコロナウイルス感染症対策に関するPCR検査の充実も含め、各自治体から

左記市長答弁について

全国市長会に係る決議や提言等には「検査体制の構築」(昨年2月)、「PCR検査の需要に対応するため、PCR検査体制

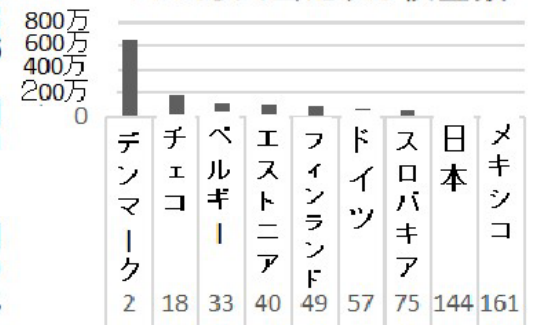
を充実強化」(昨年11月)、また「検査」の言葉はあるが、いずれも質問の「積極的検査」に係る内容はない。市独自の要望をしたという答弁もない。

市独自に検査の判断はしない

白井 今政府として全国的に感染を抑えるPCR検査の実施が明確になっていないが、2月4日の衆院予算委で参考人・分科会の尾身茂会長が、緊急事態宣言解除後の都道府県で最も大切なことは、感染リスクが高い所を中

心に無症状者に焦点を合わせた検査でリバウンドを防ぐことと述べた。7日のNHK日曜討論では、分科会の舘田一博日本感染症学会理事長も、宣言解除後、急所の部分に検査を集中することが大事と述べた。

100万人当たりの検査数



OS36カ国中9カ国の比較。デンマークは1人6回以上ということ。国名下の数字は210カ国中順位(Moridometerより)

様々な要望をしている。

両氏とも、積極的検査を抑えてきた人であり、大きな方向転換である。感染拡大抑止に成功した国で、積極的検査をしない国はないと言われている。安曇野市では、どんな状況になったらどんな検査をするのか。

保健医療部長 市内で感染者が出た場合や圏域内で感染拡大が予測される場合、保健所と連携して、市内でも集中的に検査をしてきた。市も相談に乗ってきた。

白井 制度的にはそうだが、市内の医療・介護・福祉施設、こども園、幼稚園、保育園、小・中学校等で感染者が出た場合に検査をどうするのか。市内で2月にJA支所で感染者が判明し、行政検査は別の支所の濃厚接触者1人だけだった。JAでは独自に両支所の全職員に検査をし、全員陰性だった。これは市民を安心させ、一早く平常業務に戻るための措置として高く評価すべきだ。市内の施設で1人感染者や濃厚接触者が出たときどうするのか。

白井 市民を安心させるために検査をやってもらいたい、市として主張してほしい。移動式の検査機械で1日に2500件を自動で検査できる機械も出ている。(左写真)



全自動PCR検査機が入ったコンテナ

感染症法と特措法の改定 新たな状況に対応した 差別・偏見を許さない呼びかけ

白井 先頃成立した感染症法・特措法の改正による行政罰が導入され、感染者への懲罰感情が起きる新たな状況が生まれた。これに対応した市民への一層の偏見・差別を許さない呼びかけが重要だと考える。新潟大学大学院の宮坂道夫教授（左枠内参照）は、行政罰の過料を科すことは、感染者に問題があるという見方を助長し、患者の権利や人権に配慮するという土台を壊してしまうという。差別や偏見、いじめが

あつてはならないと呼びかけてきた市の努力が、この感染症法・特措法の改正で一気にひっくり返されたようなものだ。市民への一層工夫した差別・偏見を許さない呼びかけが必要ではないか。

市長 偏見や差別は決して許されるものではない。引き続き不確かな情報や事実と異なる情報によつて感染者に対する誹謗、中傷を行わないように、人権に配慮した冷静な行動を取るよう市民にお願いし、啓発活動を強めていきたい。

検査は差別抑止にも効果！

宮坂教授は、ハンセン病の反省の上にできた感染症法に詳しい。改正前でも知事権限で入院させることができるが、拒否された場合の規定がないのは、むやみに威力を発揮しないほうがよいというコンセンサスがあるからとも述べている。

さらに、感染者が出たら、地域や職場、学校などに広範囲でPCR検査を行い、無症状感染者を特定し、隔離保護し、感染者をゼロにする。無症状の感染者がいることが怖いイメージを助長しているとも言い、差別につながらないためにも検査の重要性を指摘している。



松本市内を大人210円で走る西部地域コミュニティバス

あづみんとともに 市内巡回バスの運行を！ 5月26日(協議会)検討終了か??!! 交通は人権 市民とともに 財源確保の決意を

今年度 市内巡回バス 検討の予算なし！

白井 11月15日に市バスの実現に向けて開かれた出前講座と報告会では、政策部長も「一人一人の意見は理解できる。市内巡回バスは移住定住の条件でもある。現状でよしと思っていない」と言われ、市民の巡回バス実現の要望を重く受け止められたと聞いている。当日は、参加者が市長に要望書を提出し、その後も、出前講座と報告会を代表する方々から、事業を前に進めるための調査費の計上と試行運転が要望されたという。巡回バスの実現に向けて、令和3年度予算書にはどう反映されたか。

政策部長 令和3年度において巡回バス導入に向けた直接的な予算の計上はない。

巡回バス運行の決意を！

白井 市民は、市長に提出された市民の要望を受け止めて、市が前向きな

方向を出すと思えた。デマンド交通あづみんや定時定路線等とともに、さらに市民が利用しやすい市内巡回バスを実現してほしいという市民要望に向かつて前進させるために、5月に結論はともに出せない。さらに市民の意向調査をして、運行体制を確かなものにしていくべきだ。

問題は、市としての決意だ。

1つは「交通は人権」と本気で捉えてやり抜く決意をしなければならぬ。

2つ目は、巡回バスを必要とする市民と共に考えていくという立場をはっきりさせることだ。現在、地域公共交通会議・協議会に巡回バスを必要とする市民が入っているのか。現在行っている聞き取り調査に本当に巡回バスを必要とする人が入っているのか。

3つ目は、財源確保。

以上について伺う。

政策部長 バス路線の設定とバス停の維持、運行



安曇野市の定時定路線バス

に係る経費をシミュレーションし、計画と財政の両面から費用対効果を検証した。

一方、利用する市民の立場から市民と直接対面し、路線ルートやバス停の位置等を示して巡回バスに対する意識調査を行い、2月末現在で525人の回答を得た。5月の市地域公共交通会議・協議会の総会に、部会での結論とともに巡回バスの導入について諮りたい。

必要とする市民の声を聞いてない

白井 聞き取り調査に子どもや学生、若い方、観光客も含めて聞き取るべきと考えるが。

政策部長 これまでの方向性には変わりはない。

市民アンケート ご協力ありがとうございました あふれる主権者意識！意見と要求

日本共産党が今年行った市民アンケートでは、主権者意識に富んだ意見や要望をたくさんいただきました。今後の政策立案に活かさせていただきます。

ここでは自由記述の「安曇野市政でやってほしいこと、問題と思うこと」（一部削除したり、分かりやすくするために表現を変えた部分があります）の一部と、要望の内「解決・前進したこと」を紹介します。

りやすくするために表現を変えた部分があります）の一部と、要望の内「解決・前進したこと」を紹介します。

安曇野市政でやってほしいこと

子育て 教育

*子どもが減っても子育ての質を下げないで
*雨の日に幼児を連れて遊びに行ける場所が欲しい
*給食センターは今のままにしてほしい
*不登校児のサポート、規則・制度・常識第一でなく本当に子どものことを大切に考える学校を
*平和憲法について、学校の授業に取り入れてほしい
*保育士の仕事に対して

環境 文化

待遇改善をしてほしい
公共交通の充実を
*定期バスの運行を早く
*あづみんは、市内どこへでも乗り乗換えなしで、せめて75歳以上は100円に
*免許返納であづみんに換え、通院2時間と考え予約したけれど時間内に終わらず、歩いて帰ったことも
*運転ができなくなったら住み続けられない。あづみんの拡充を。

環境 文化

*田んぼが住宅地になり、自然の豊かさが失われている
*箱物より環境保全や文化振興に力を入れるべきだ
*空き家の利活用をしてほしい

農業 雇用

*農業者の高齢化と後継者がいない問題の解決を
*若者の地元離れ対策を

市政 生活 道路

*マンネリ化していて、政策に改革、先見性がな



*市役所での対応が良くない。もっと市民の立場になって考えてほしい
*移住して住んでみると交通面、生活面で魅力がない
*道路・歩道整備を
*南豊科駅にロータリーを造ってほしい
*雪がたくさん降ったときに雪かきが困る



5月14日、日本共産党安曇野市議団は、新型コロナウイルス対策について7項目の申し入れ(8回目)を行いました。

① 徹底の検査
② 変異株検査
③ 医療スタッフ確保と医療機関支援
④ 初期対応の発熱患者診療体制確保
⑤ 事業者支援
⑥ ワクチン接種
⑦ 子どもの適切な対応
⑧ 巡回バスの運行を！
同時に、あづみんの改善とともに市民要求の強い市内巡回バスについて、運行実現に向けた検討継続を求める申し入れもしました。

第8回新型コロナウイルス対策 市長の申し入れ

直ちに解決 前進の方向へ！

◆狭い道路の交通量が多く、子どもの交通事故が心配！
通勤時間帯の交通量調査を行い、道路の速度制限や時間による進入禁止等について警察に相談。これを基に区で対策を検討し、市や警察への要望にしていきたいと思います。

◆交差点の信号機の設置を！

子どもの安全な道路横断に不安な交差点。警察に相談すると直ぐに交通量調査をしてくれ、交通量が信号機の設置基準以下であることや交差点の形状、横断歩道手前の退避場所が狭いことが明らかに。信号機の設置は今後も課題ですが、当面、周辺の道路環境の整備が課題です。

◆ごみ・資源物集積所を増やしてほしい！
区によって集積所が少なく、車のない高齢者の苦勞を伺いました。区の会議で話

題なったところもあります。

◆猿害対策を！
区の要求、被害の実情を聞き、対策強化へ。

◆道路の補修を！
事故が起きますと市や県は管理責任を問われることがありますので、通報があると直ぐに現場を確認して必要な補修等を行います。道路に空いた穴やグレーチングのずれ等気づいたことは直ぐに市役所建設課に連絡してください。

◆道路改良を！
歩道設置、道路拡幅、道路標示追加、右折車線増等、担当課や警察に相談。区の要望につなげる方向へ。

